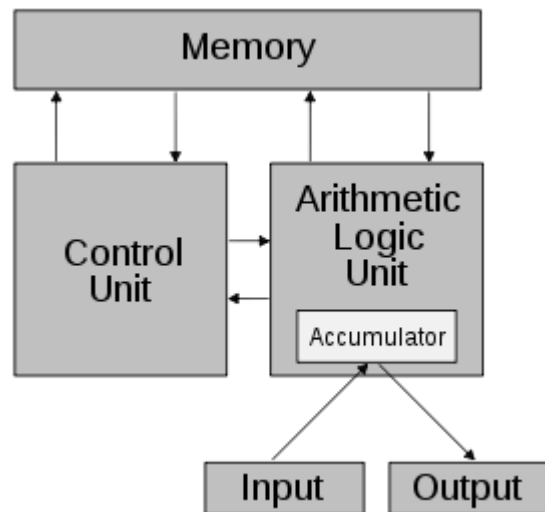


脳型計算機のプロトタイプ実現に向けて

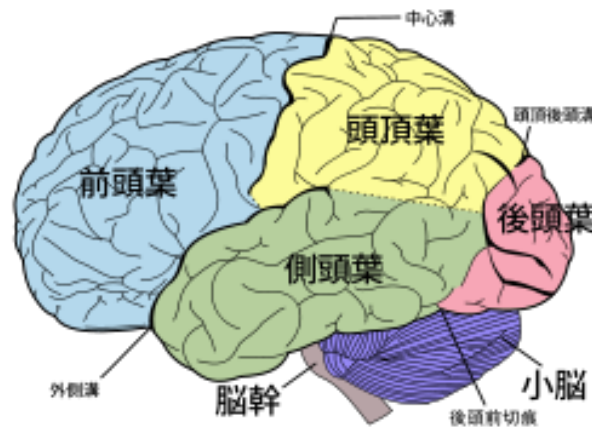
佐藤 茂雄

研究目的

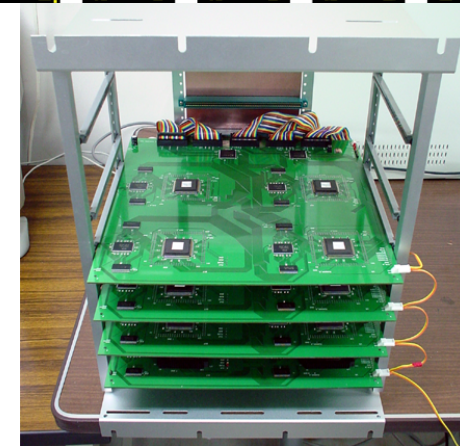
脳型計算機の工学的実現のためには、デバイス技術や回路技術だけでなく、実世界に対応しうる計算機アーキテクチャの開発が必要不可欠である。このためには、具体的な応用課題について、必要な機能・計算能力を求め、それを実現しうる回路構成を示すこと、つまりプロトタイプを構成することが重要な鍵である。またこれを端緒として応用範囲を広げ、さらには汎用性を求めていくことが実用化への近道と考えられる。



フォン・ノイマン型
アーキテクチャ



脳の階層構造
と機能局在



脳型計算機？